

あなたの一票が政治を変える力に。



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団

2021.6.30. 部内資料

御相談はお気軽に

TEL とも 3905-0970

FAX からも

赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く)

五輪の是非が焦点

はいはい
7月4日投票日は



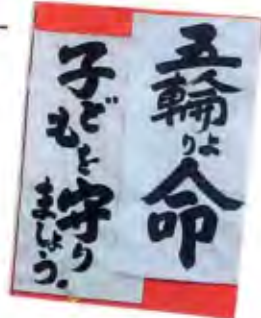
今夏は中止し、コロナ対策に総力を。
日本共産党



日本共産党の都議会議員選挙の政策アスタです。

志位委員長が
7月1日(木) 6時
赤羽東口を訴える!

そねはじめ候補を押しよけ
命を守る都政をつくりましょう。



目黒区、文京区についで、板橋区も中止を表明しました。
北区も早く中止の決断を。



そねはじめ

原体剣舞の少年

旧赤羽台東小あと地に、児童相談所や児童発達支援センターなど建設へ

スケジュール

複合施設は令和7年度の開設予定、児童相談所及び一時保護所は令和8年度の開設を目指し、計画を進めます。

●6月24日、北区議会第2定例会は、旧赤羽台東小学校の解体工事請負契約についても全会派一致で決めました。
●なお、7月9日には解体工事説明会がおこなわれます。
●詳細は、北区総務部学務課にお問合わせください。3908-8074

	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)
施設整備		基本計画	基本設計・実施設計	建設工事		●複合施設開設(予定)	
既存校舎の解体工事	調査	解体の計画	解体工事				
児童相談行政の体制・組織	調査	体制・組織の検討					●児童相談所及び一時保護所開設(予定)
人材の確保・育成							
児童相談所設置市の事務							

※今後の検討状況により、スケジュールが変更になる場合があります。

五輪動員76%中止
埼玉の小中高6万6080枚

子どもの五輪動員14自治体で中止

2021年6月29日付「しんぶん赤旗」より

五輪は自然災害ではない 政治の決断で中止できる

共産党・志位委員長 強調

日本共産党の志位和夫委員長は6月17日、国会内で記者会見し、五輪強行に突き進む菅政権の姿勢を厳しく批判し、「五輪は自然災害ではない。政治の決断で中止できるし、中止の決断をするべきだ」と強調しました。



国立感染症研究所と京大の研究グループが厚生労働省のアドバイザリーボードに提出した「シミュレーション」から

(1)デルタ株の影響が「小さい場合」でも、宣言解除後の人流増加をプラス10%程度に抑えても、7月後半から8月前半に宣言の再発令が必要となる可能性がある

(2)デルタ株の影響が「非常に大きい場合」は、7月前半から中旬にも宣言の再発令が必要となる可能性がある

誰でも、いつでも、安心してかかる
公的病院の存続は、私たちの
まちの問題でもあります。

▶ 連絡会のみなさんが調査された資料から
独法化後の大阪府立病院の実態が明らかに
▶ お金がなければ、医療が受けられなくなる

2021.6.30. 「さくらレポート」(部内資料)

6/28 発表。都府有権者を対象とした世論調査では、五輪の是非が焦点となりました。

毎日 現状開催「反対」58%
朝日「中止」・「再延期」60%

都立病院は、都直営のまま残して

独法化された大阪府立病院の実態

▼セカンドオピニオン料

直営	30分	7400円
独法化	45分	A 2万1000円
	45分	B 1万500円
		(A・Bは病院長が決める)

▼分べん料

直営	9万3000円
独法化	18万円
	※時間外19万円
	深夜20万円

▼抗がん剤感受性試験料

直営	5万500円
独法化	7万5000円

※独法化後、収益を上げるため患者負担を増やした。

(2018年時点、「都立病院の充実を求める連絡会」資料から作成)

日本ワクチン学会理事
中山哲夫さんに聞く



ワクチンの供給不安で「急げ」と号令をかけた菅政権のワクチン接種計画が混乱しています。事態をどうみるか、日本ワクチン学会理事の中山哲夫さんに聞きました。(中相責) 市町村でのワクチン接種などでの「職域接種」が基本でしたが、「と」大学の接種も始まりま

背景に五輪開催強行論

接種のルートを増やしたとき、どのくらい接種の「需要」が生まれるか、それに対してきちんとワクチンの供給ができるのかという計算をしていなかったという事です。モデルナ社製ワクチンが9月までに5000万回分供給予定でしたが、学生の接種受付を始めたところという間にいっばいになった。河野太郎担当相は「余裕がある」と言っていたのに、1週間もたたずに「ないです」では話にならない。あまりの杜撰(ずさん)さにあきれかえっています。職域接種だけでなく、自治体向けのファイザー社製ワクチンの供給にも遅れが出て、自治体からも懸念の声が出ています。接種の計画をつくるとき、ワクチン供給の契約があるのは当然ですが、世界でワクチンの供給が足りない現状で、本場にそれだけのワクチン(現物)があるかはわかりません。それがわかっていることを確認、確保したうえで接種の順番と実施の計画を公表していくのが当然です。政府のやっていることは「政策」というより、ゆきあたりはったりの失策です。2月に医療従事者への接種を始めるとしながら、供給が十分でなく大きく遅れたのと同じことを繰り返しています。混乱の極致です。どうしてこんなことになるのかといえは、オリンピックに間に合わせるために無理をしているからでしょう。「7月中旬に高齢者の接種を終える」という計画もその一つです。迅速に進めることは大事ですが、政府の分科会からは「もう少し慎重に計画を立てた方がいい」という意見も出ていました。政府主導で専門的意見を無視し、とにかく急げという方向性になっています。

接種計画ずさん 政府の失策